

48 長与専齋と「衛生意見」の意義

笠原英彦

内務省の初代衛生局長、長与専齋は明治九年に万国医学会出席のため渡米した際、アメリカ各地の衛生施設を視察した。長与は帰国まもなくその見聞の成果を「衛生意見」にまとめ、翌十年十月、ときの内務卿大久保利通に提出した。「衛生意見」では、わが国最初の体系的医事法たる医制を具体化する上で、アメリカ衛生行政の導入が提唱されている。

本報告では、長与が視察、見聞した一八七〇年代中葉のアメリカ衛生行政の実態を明らかにするとともに、長与が提起する「自治衛生」の概念を念頭におきつつ、「衛生意見」の内容を分析しその意義を明らかにしたい。

明治九年、長与は衛生局長として一段と衛生行政法規としての性格を強めた改正医制を如何に実施すべきか日々思案を重ねていた。内務省は「各地従来ノ習俗ヲ觀

察シ目今施設ノ条項を商量する方針」に立ち、「自治衛生」をめざしつつあった。

この年アメリカはフィラデルフィアで開催された万国医学会には後に東京大学医学部長となる三宅秀もアメリカ医学教育の視察を命じられ随行していた。三宅は長与らの視察の様子などを英文の手記として残していた。そこには長与がアメリカ衛生行政の調査に主眼を置き、伝染病予防の観点から出生死亡統計をはじめ環境衛生法、わけても上下水道関係法令、汚物処理法規、さらに食品衛生関係などにわたる意欲的な調査活動が紹介されている。

このアメリカにおける視察、見聞の成果は「衛生意見」としてまとめられ、欧米の衛生法として「総テ人民ノ衣食住ニ関シ其健康ヲ害シ流行病伝染病ノ禍源トナルモノハ駆除防禦ノ方法ヲ設ケテ之ヲ施行スル」「直達衛生法」が提示された。長与によれば、アメリカでは人口密度の高い地域には衛生局を設け、局長以下衛生取締、検査掛までを組織化し、政府の定める法律にしたがい衛生行政が遂行されていた。

意見書の中で長与が最も強調したかったのは、「各地風俗人情ノ異同ニヨリテ一渠ニ拘束スベカラザルノ情勢アルガ故ニ随所ニ衛生局ヲ設ケ便宜施行セシメ而シテ政府ハ其要領ヲ統括スル而已」とする点であろう。内務卿の大久保が掲げる「適宜ノ分権」を衛生局長たる長与は「自治衛生」の理念に結実させた。依然地域格差の大きいこの時代に、長与は衛生行政をめぐる規模と財政負担を視野に入れていたとみられる。

長与がアメリカで見聞し自伝『松香私志』に記した「自治衛生の大義」には、「直達衛生法中ノ最大緊要ナルモノ」として、開港地を中心とした防疫体制の強化と下水道の敷設など環境衛生の整備が含まれていた。アメリカ視察を通じて、長与はコレラの来襲を受け、アメリカ東部の諸都市がチャドウィック・モデルを範に環境衛生事業を主体とする衛生改革運動を展開した成果を目的としたりとした。ワシントンやボストンの視察では「区医」の制度に着眼して、費用のかさむ病院建設への有効な対応方法を摸索した。

長与は年来主張してきた「自治衛生」の理念がアメリ

カ視察で裏づけを得たことに自信をもって「衛生意見」を提出した。

本報告ではアメリカ視察を中心に「衛生意見」作成の背景を探るとともに、その内容を検討しつつ意見書のもつ意義を明らかにすることをめざしたい。

(慶應義塾大学)